

フラメンコの樹

第8回

鈴木 真澄 (バイラオーラ)

Masumi Suzuki / 1958年中野生まれ。6歳でバレエ。12歳で新体操。15歳フラメンコ。18歳渡西。21歳結婚。22歳雄輔出産。23歳麻衣出産。25歳教室開設。26歳離婚。34歳雄輔渡西。36歳麻衣渡西。42歳会社設立。50歳初孫。60歳フラメンコ。俳句入門。



©GRSPANY

「コロナで得たもの、失ったもの」

あれは、いつのことだったでしょうか……
月日や季節の感覚がなくなってしまう
した。

暮れには熊本の八代から巨大みかん「晩
白柚」が届き、エントランスに香り高く鎮
座しました。恒例の新年会はスタジオに
てみんなが大好きな会津の郷土料理「こづ
ゆ」やパエジャなど多国籍料理を作って食
べたり、話したり、笑ったり、踊ったりと
楽しくできたものの、それ以降の記憶がブ
ツンとない……

スケジュール帳を開いてみる。

マジョール新年会、熊本レッスン、郡山・福
島レッスン……変わらぬ日常が続いて、でも
何かが忍び寄る感じがしたのは覚えている。
2011年3月11日・東日本大震災から
毎年開催してきたライブ「フラメンコで贈
る東北へのメッセージ」。

8月に延期するも、その後やむなく中止。
30年続けたエルフラウ・ガルロチ発表会白紙。
20年通った九州ツアー中止。

20年間、その一年の感謝の気持ちで開催
してきたハイアット・リージェンシー東京
でのクリスマスディナーショーも諦める。

えっ？
何、これ？

どういうこと？
事態をきちんと把握すら出来ずにいろん
なことを決めていく恐怖。

自分、合ってる？

迷惑かけてない？

誰にも確認してもらえず、誰もが何が正

解かもわからず……

ただ、生きていかななくてはならない。
その状況は今もなんら変わりはなく、半
ばあきらめ、やれることをやる。

なんて……

いやいや、負けるわけにはいきませんよ！
踊れない？

内面の成長と根っこを張る時期です！
フラメンコは苦境の中から生まれました
もの。

これでやっとフラメンコを地でいけます。
そして、すべてひっくり返るまで発想転換し
てみた。

コロナ渦中でよかつたさがし。
5年もかけてコツコツ準備してきたフラ
メンコ協会のイベント「セビジャーナスの
架け橋」は中止。

代わりにオンライン発信されたセビジャ
ーナスつなぎは協会と国の枠をも超えて
1000人以上もの素晴らしい輪が、今も
広がり続けている。

復興を目指してFlamenco2020というサ
イトが立ち上がった。企画は以前からあつ
たものの、この制限下ならではの、距離や
時間をものともしないインターネット上で
の展開の素早さ、ボランティアで集まった
スタッフたちの私利私欲を捨てた献身的な
活動と素晴らしい成果。

イベントができない、地方に行けない、
「ない」を探したらキリがない。

初めてオンラインでソロライブをやった
ら普段観られない方々にも喜ばれた。

よかつたことは探せばいっぱいあるもの
です。

一年悩んで始めたYouTubeは、緊急事
態宣言下にも、たくさんの人たちとの繋が
りをもっと深めてくれました。

部屋が散らかってても、素顔でも、そん
なことより大事なことは毎日何かしらのメ
ッセージを発信すること。

誰も孤独にたくない。

Facebookでも、素晴らしい人たちと知
り合えました。

コロナよりも先に抱えていた問題は容赦
なく決断を迫られ、21年過ごしてきたスタ
ジオを閉めた。代わりにお借りした古巣で
ある小松原のスタジオは、今も現役の庸子
先生との関わりも深まり、初心に帰らせて
くれる。

「人生、すべてのことに意味がある」

プラスにするか、マイナスにするかは自
分次第。

失ったものを悔やむか、得たものを生か
すか、生き方そのものを問われている。

コロナで得たものを最大限に利用して、
生きなきゃならないなら面白がついていき
たい。
何ヶ月ぶりかにお稽古に戻った生徒さん
は、関節はギシギシ、外見はふんわりした
身体を駆使して踊る。

次第に憑き物が落ちたように生き生きと
踊る。

一度失ったからこそ気がついた幸せ。
フラメンコって、不要不急じゃないです！